

分科会からの報告

介護過程における課題分析の文章作成に資するワークシートの考案

— 課題分析の文章例の構成要素を踏まえて —

静岡県立大学短期大学部

高木 剛

1. 研究目的

利用者の心身の状況に応じた介護を提供するうえで、介護過程は欠かせない。介護過程とは、利用者一人ひとりが望む生活を実現するための思考と実践の一連のプロセスで、通常、アセスメント（情報収集、課題分析）、介護計画の立案、実施、評価で構成される。この一連のプロセスを踏むことで、利用者のニーズに即した支援が可能となるのである。

しかし、介護過程の展開次第では、利用者のニーズとは異なる支援に繋がる危険性も有している。介護過程の各プロセスのうち、とりわけアセスメント（情報収集、課題分析）に含まれる「課題分析」は、利用者に対する支援を方向づけるため、極めて重要である。しかし、課題分析は、収集した利用者の様々な情報を解釈・分析・統合し、その方の生活課題を明確にすることが求められるため、誰でも容易にできるわけではない。しかも、それをどのように文章化するかは各人の能力に委ねられており、一定の水準を担保しづらい。

これに関連する先行研究として、アセスメント（情報収集、課題分析）で用いる記録用紙（シート）等の教材作成については、横尾（2012）¹⁾、柘崎（2010）²⁾、長島（2008）³⁾などが挙げられる。しかし、いずれも課題分析の指標は示されているものの、その文章作成に係る具体的な手法には触れられていない。

そこで、本研究では、課題分析の文章作成に資

する補助教材として、課題分析ワークシートを考案した。

2. 研究方法

本研究では、①介護福祉士養成施設等で使用されている主要テキスト^{4)~6)}に記載されている課題分析の文章例から構成要素を抽出したうえで、②それらの要素を踏まえ課題分析の文章作成の枠組み（型）を検討し、③それをもとに課題分析ワークシートを考案した。

3. 倫理的配慮

本研究で用いたテキスト、文献・資料等については、その出典を明記した。

4. 介護過程とは

介護過程とは、「利用者一人ひとりが望む生活を実現するための思考と実践の一連のプロセスのこと」である。そのプロセスは、主として、①アセスメント（情報収集、課題分析）、②介護計画の立案、③実施、④評価の4つで構成される。このうち、本稿で注目するアセスメント（情報収集、課題分析）とは、利用者の全体像を様々な視点から把握（情報収集）し、得られた情報を解釈・分析・統合して、その利用者が日常生活を送るうえで課題となっていることを明確にすること（課題分析）である。

5. 介護過程の展開に用いる

記録用紙（シート）について

介護過程を展開する際に用いる記録用紙（シート）は、介護福祉士を養成する大学や短期大学等の介護福祉士養成施設はもとより、特別養護老人ホーム等の介護現場で統一されているわけでない。したがって、記録項目等に多少の違いがあることは否定できないが、少なくとも介護過程の各プロセス（アセスメント（情報収集、課題分析）、介護計画の立案、実施、評価）を意識した様式になっているはずである。

また、介護過程の記録用紙（シート）のうち、とりわけ情報収集で用いるものについては、国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health：ICF）の構成要素等を活用して、利用者の生きる全体像を捉えるよう工夫されているものが少なくない。なお、国際生活機能分類（ICF）について少し触れておかなければ、その主な特徴として少なくとも次の6つが挙げられる。

①国際障害分類（ICIDH）の改定版である。②人が生活する全体像を捉える枠組みである。③障害のマイナス面のみならず、プラス面にも着目している。④「健康状態」のほか、「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」の要素で構成されている。⑤上記④に記した各要素の相互関係性に注目している。⑥専門職種間はもとより、利用者本人および家族等との共通言語としての機能をもつ。

また、国際生活機能分類（ICF）を構成する各要素の内容は、次のとおりである。

- 「健康状態」・・疾病、怪我、変調、ストレスなど利用者の健康面に関する状況
- 「心身機能・身体構造」・・手足の動き、視覚・聴覚・精神面などの機能面（心身機能）、および手足の欠損、指の関節、皮膚などの構造面（身体構造）などに関する状況
- 「活動」・・日常生活動作（Activities of Daily Living：ADL）を中心とした生活行為に関する状況

- 「参加」・・地域行事への参加や他者との交流など、地域社会との関係性・繋がり（役割等を含む）に関する状況
- 「環境因子」・・介護者、住環境、ペット、福祉用具、制度など利用者を取り巻く、人的・物理的・社会的環境に関する状況
- 「個人因子」・・性別、人種、生活歴・ライフスタイル、趣味など利用者の人生や生活背景等に関する状況

6. アセスメント（情報収集、課題分析）

の記録用紙（シート）の例

前述のとおり、介護過程の記録用紙（シート）は、各プロセスに応じた様式が用いられる。特に、アセスメント（情報収集、課題分析）の記録用紙（シート）の例として、表1-1から表1-5並びに表2のような様式が考えられる。なお、個人因子に含まれる性別、生年月日（年齢）のほか、氏名などを利用者の「プロフィール」として別途記録する様式を作成している場合も少なくない。

7. 課題分析の文章化

このような記録用紙（シート）を用いて利用者のアセスメント（情報収集、課題分析）をするのであるが、中でも課題分析は、利用者に対する支援を方向づけるために、収集した利用者の様々な情報を解釈・分析・統合し、その方の生活課題を明確にすることが求められるため、極めて重要なプロセスといえる。しかし、誰でも容易にできるわけではなく、しかも、それをどのように文章化するかは各人の能力に委ねられているため、一定の水準を担保しづらい。

近年、少子高齢化の影響により四年制大学や短期大学等に比較的容易に入学できる状況の中で、若者の基礎学力の低下が指摘されている⁷⁾。また、スマートフォンなどの普及により e-mail による短かい文章での発信が主流になっており、いわゆる、手紙を書くという習慣が薄れている。このような状況の中で、利用者の様々な情報を解釈・分析・統合し、文章化していく手法を検討すること

は、介護過程に係る大きな課題であると考えられる。

8. 課題分析の文章例

このような問題意識を踏まえ、筆者は課題分析の文章作成に資する補助教材の考案を試みた。具体的には、介護福祉士養成施設等で使用されている介護過程のテキスト^{4)~6)}を用いて、そこに記載されている課題分析の文章例から、その文章を構成する要素を抽出し、それをもとに文章作成の枠組み(型)を作成した。本稿ではそれらのすべてを記すだけの十分な紙幅がないため、3つの文章例(①~③)を取り上げる。

1) 文章例①

『施設内の食堂や浴室への移動は電動車いすを使用しているが、施設内だけでなく、買い物や外食などに出かけたいという思いがある。しかし、今のところ電動車いすの運転技術が十分でないことから、施設内でも壁やほかの利用者にぶつかってしまうことがある。したがって、電動車いすに運転技術を高めるとともに、外出の機会を設けることを検討する必要がある。』(出典：介護福祉士養成講座編集委員会：新・介護福祉士養成講座9・介護過程. 148, 中央法規, 2010.)

この文章例を構成する要素(【 】で表示)を示すと、次のようになる。

『施設内の食堂や浴室への移動は電動車いすを使用しているが、施設内だけでなく、買い物や外食などに出かけたいという思いがある【現在の状況】。しかし、今のところ電動車いすの運転技術が十分でないことから【原因・理由】、施設内でも壁やほかの利用者にぶつかってしまうことがある【現在の状況】。したがって、電動車いすに運転技術を高めるとともに、外出の機会を設けることを検討する必要がある【必要な支援】。』

2) 文章例②

『Kさんは、日中は自力でトイレに行けるが、夜間はふらつくことがあるので、ベッドで尿器を使用している。排便は1日1回あるが、便がかた

く、毎日排便がないと気になってしまう。排便が気になるあまり、あまり強くいきむと血圧上昇にもつながる可能性がある。現在、便をやわらかくするための薬を服用しているが、食事の管理と水分摂取を十分に行い、毎日規則正しい排便習慣をつけることが必要ではないか。』(出典：黒澤貞夫他：介護福祉士実務者研修テキスト第3巻・介護Ⅱ - 介護過程. 142, 中央法規, 2015.)

この文章例を構成する要素(【 】で表示)を示すと、次のようになる。

『Kさんは、日中は自力でトイレに行けるが【現在の状況】、夜間はふらつくことがあるので【原因・理由】、ベッドで尿器を使用している【現在の状況】。排便は1日1回あるが【現在の状況】、便が硬く【原因・理由】、毎日排便がないと気になってしまう【現在の状況】。排便が気になるあまり、あまり強くいきむと血圧上昇にもつながる可能性がある【今後、予想される結果】。現在、便をやわらかくするための薬を服用しているが【現在の状況】、食事の管理と水分摂取を十分に行い、毎日規則正しい排便習慣をつけることが必要ではないか【必要な支援】。』

3) 文章例③

『・・・Iさんが外出できずにいるのは、本人が転倒を恐れていることもあるが、その気持ちの裏には、長男の反対や家族に迷惑をかけたくないという気持ちが隠されているのではないかと考える。今の生活が続くと、身体機能や生活意欲が低下する恐れがある。安全な移動方法の確保や転ばないような安全な環境が確保できれば好きな料理ができ、食事の摂取量も増加するのではないかと考える。』(出典：澤田信子他：介護福祉士養成テキストブック8・介護過程. 172, ミネルヴァ書房, 2014.)

この文章例を構成する要素(【 】で表示)を示すと、次のようになる。

『・・・Iさんが外出できずにいるのは、本人が転倒を恐れていることもあるが【現在の状況】、その気持ちの裏には、長男の反対や家族に迷惑を

かけたくないという気持ちが隠されているのではないかと考える【原因・理由】。今の生活が続くと、身体機能や生活意欲が低下する恐れがある【今後、予想される結果】。安全な移動方法の確保や、転ばないように安全な環境が確保できれば【必要な支援】。【その他（留意すること）】、好きな料理ができ、食事の摂取量も増加する【望ましい状態】のではないかと考える。』

これらの文章例の結果から、課題分析の文章を構成する要素として、「現在の状況」「原因・理由」「今後、予想される結果」「望ましい状態」「必要な支援」「その他（留意すること）」があることが明らかになった。

9. 課題分析の構成要素を踏まえた

文章作成の枠組み（型）

前述のとおり、課題分析の文章作成にあたっては、「現在の状況」「原因・理由」「今後、予想される結果」「望ましい状態」「必要な支援」「その他（留意すること）」の要素を盛り込むことが望まれる。これらの要素を踏まえ、課題分析の文章作成の枠組み（型）を作成した（表3）。そして、この枠組み（型）をベースとして、前述の国際生活機能分類（ICF）の構成要素を盛り込んで、課題分析ワークシートとして仕上げた（表4）。

10. 事例による課題分析の例

この課題分析ワークシートを活用することで、課題分析の文章をどのように作成することができるのか、利用者Aさんの事例をとおして概説する。ただし、事例文を記載するだけの十分な紙幅がな

いため、ここでは表1-1、表1-2の記録用紙（シート）に記入したAさんの情報のみを用いる（表5、表6）。なお、表5および表6のAさんの情報に付記されている番号は、課題分析（表7）をするうえで用いる情報を示す。また、カッコ内の日付などは、その情報を得た日や情報源（観察、本人、記録物など）を示す。

表5および表6のAさんの情報を踏まえ、課題分析ワークシート（一部を抜粋）を活用して各構成要素の枠組み（型）にあてはめた文章を作成すると表7ようになる。そして、それらをつなげると、課題分析の文章としてまとめることができる（表8）。

11. 今後の課題

本稿で考案した課題分析ワークシートは、補助教材として課題分析の文章作成に資することを目的としたものである。したがって、課題分析ワークシートを活用することで、課題分析として非の打ちどころのない文章を作成できるわけではないことを強調しておく。

また、今後、本研究を深めるにあたり、次の3つが今後の課題である。

第一に、課題分析ワークシートを活用することで、文章作成に効果が得られるか検証することである。第二に、本シートを使用することのメリット、デメリットについて具体的に整理すること。そして第三に、海外ではどのようなアセスメント（情報収集、課題分析）シートを使用し、課題分析の文章作成についてどのような工夫をしているか等の情報収集をすることである。

主な文献・資料

- 1) 横尾成美：生活関連図を用いた介護過程展開の理解度と考察：試験評価と実習後の自己評価。東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要。第2号，169-187，2012。
- 2) 柘崎京子：介護過程のアセスメントシートの作成：アセスメント段階における理解を高めるための2つのアセスメントシート。共栄学園短期大学研究紀要。第26号，1-27，2010。
- 3) 長島稔子：介護過程における教授方法の検討 -- 情報分析の視点を養うワークシート作成の試み。西九州大学健康福祉学部紀要。第39巻，37-47，2008。

- 4) 介護福祉士養成講座編集委員会：新・介護福祉士養成講座9・介護過程. 中央法規, 2010.
- 5) 黒澤貞夫他：介護福祉士実務者研修テキスト第3巻・介護Ⅱ - 介護過程. 中央法規, 2015.
- 6) 澤田信子他：介護福祉士養成テキストブック8・介護過程. ミネルヴァ書房, 2014.
- 7) 中央教育審議会：入学者受入れの方針について－高等学校段階の学習成果の適切な把握・評価を：学士課程教育の構築に向けて答申（案）. 文部科学省 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/08103112/003/005.htm) (2016年5月20日閲覧)

表1-1. 情報収集（健康状態／心身機能・身体構造）

内 容		状 況		
1	要介護状態区分／ 障害支援区分			
2	認知症高齢者の 日常生活自立度			
3	運動機能			
4	精神機能			
5	言語機能			
6	視覚機能			
7	聴覚機能			
8	既 往 歴			
9	現在の疾患			
10	服薬状況			
11	バイタルサイン	体温：	脈拍：	血圧：
12	そ の 他			

出典) 介護福祉士養成講座編集委員会：新・介護福祉士養成講座9・介護過程. 中央法規, 42-46, 2010より筆者作成

表1-2. 情報収集（活動）

内 容		現在の状況 (本人がしていること、できること等)	本人の発言やしぐさ等
1	食 事		
2	排 泄		
3	入 浴		
4	移 動		
5	整 容		
6	睡 眠		
7	そ の 他		

出典) 前掲書より筆者作成

表1-3. 情報収集（参加）

内 容		現在の状況 (本人がしていること、できること等)	本人の発言やしぐさ等
1	他者との交流		
2	行事への参加		
3	役 割		
4	そ の 他		

出典) 前掲書より筆者作成

表1-4. 情報収集（環境因子）

内 容		現在の状況	本人の発言やしぐさ等
1	家族関係		
2	生活用具		
3	住環境		
4	経済状況		
5	サービス利用		
6	その他		

出典) 前掲書より筆者作成

表1-5. 情報収集（個人因子）

内 容		状 況
1	生 活 歴	
2	性 別	
3	生年月日（年齢）	
4	趣 味	
5	生活スタイル	
6	価値観・習慣	
7	そ の 他	

出典) 前掲書より筆者作成

表2. 課題分析

情報番号	情報の解釈・分析・統合	生活課題	優先度

出典) 前掲書より筆者作成

表3. 課題分析の文章作成の枠組み

構成要素	文章作成の枠組み (型)
現在の状況	現在、○○の状態である。
原因・理由	それは△△が原因だと考えられる。
今後、予想される結果	この状態が続くと◇◇になる恐れがある。
望ましい状態	□□ (の状態) になるためには、
必要な支援	××の支援が必要である。
その他 (留意すること)	その際は、▽▽に留意することが求められる。

出典) 前掲書より筆者作成

表4. 課題分析ワークシート

健康状態	(生活機能と関係性がありそうなものは?)					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> 服薬状況 (副作用として生活機能に影響しそうなことなど) </div>
文章の構成要素 生活機能の構成要素	現在の状況 (生活するうえで支障になっていることなど)	原因・理由 (その原因・理由として考えられることは?)	今後、予想される結果 (その状態が続くとどのようなことが予想されるか?)	望ましい状態 (どのような状態になることが望ましいか?)	必要な支援 (その実現にはどのような支援が必要か?)	留意すること (その際に留意することは?)
	「現在〇〇の状態である」	「それは△△が原因だと考えられる」	「この状態が続くと◇◇になる恐れがある」	「□□になるためには」	「××をする必要がある」	「その際は、▽▽に留意することが求められる」
心身機能・身体構造						
活 動	食 事					
	排 泄					
	入 浴					
	移 動					
	整 容					
	睡 眠					
	その他					
参 加	他者との交流					
	役 割					
	余暇活動					
	その他					
環境因子	(生活機能と関係性がありそうなものは?)			個人因子	(生活機能と関係性がありそうなものは?)	

表5. Aさんの情報（健康状態／心身機能・身体構造）

内 容		状 況		
1	要介護状態区分／ 障害支援区分	要介護3の認定を受けている。(5月3日記録物より転記)		
2	認知症高齢者の 日常生活自立度	略		
3	運動機能	①歩行がやや不安定(T字杖にて自立歩行)。(5月5日職員からの情報)		
4	精神機能	②認知症が進行し、認知機能が低下してきている。(5月3日記録物より転記)		
5	言語機能	略		
6	視覚機能	③視覚障害(弱視)のため、周りの状況を把握しづらい。 (5月3日記録物より転記)		
7	聴覚機能	特に問題なく聞きとれる。(5月3日記録物より転記)		
8	既往歴	略		
9	現在の疾患	④アルツハイマー型認知症		
10	服薬状況	⑤アリセプトを服用		
11	バイタルサイン	体温： 略	脈拍： 略	血圧： 略
12	その他	略		

表6. Aさんの情報（活動）

内 容		現在の状況 (本人がしていること、できること等)	本人の発言やしぐさ等
1	食 事	略	略
2	排 泄	略	略
3	入 浴	略	略
4	移 動	⑥ T字杖を使用して自立歩行している。 (5月8日観察) ⑦ 歩行時に、少しふらつきが見られた。 (5月9日観察) ⑧ 歩行時に、前にいた利用者(Bさん)にぶつかりそうになった。 (5月9日観察) ⑨ T字杖を持たずに歩こうとしていた。 (5月10日観察)	⑩ 歩行中に「杖を持ち忘れた。杖はどこかに置いてきた」と言われた。 (5月8日、5月9日日本人より) ⑪ 「歩くのは、気持ちがよいから好きだ」と言われた。 (5月13日日本人より)
5	整 容	略	略
6	睡 眠	略	略
7	その他	略	略

表7. Aさんの情報による課題分析

構成要素	文章作成の枠組み（型）による文章例
現在の状況	Aさんは、アルツハイマー型認知症を患っており（情報④より）、T字杖にて自立歩行しているが、歩行時にふらつきが見られたり、他の利用者にぶつかりそうになることがある（情報①、⑥～⑧より）。
原因・理由	その原因として、歩行の際にT字杖を持ち忘れることや（情報⑨⑩より）、視覚障害（弱視）や認知症により周りの状況を把握しづらいこと等が考えられる（情報②③より）。
今後、予想される結果	この状態が続くと、歩行時に転倒したり他者と接触する恐れがある。
望ましい状態	Aさんが安全に安心して歩行するには、
必要な支援	T字杖の持ち忘れを防ぐための声かけや、歩行時の見守りをする等の支援が必要である。
その他（留意すること）	その際は、Aさんの「歩きたい」という思いを尊重することや（情報⑪より）、アリセプトの副作用（眠気等）（情報⑤より）を考慮することが求められる。

注）課題分析ワークシートにおける生活機能（活動）のうち、移動の部分を抜粋

表8. 課題分析の文章例

<p>Aさんは、アルツハイマー型認知症を患っており（情報④より）、施設内はT字杖を使用して自立歩行しているが、時々、ふらついたり、他者と接触しそうになることがある（情報①、情報⑥～⑧より）。その原因として、Aさんは歩行時にT字杖を持ち忘れることがあり（情報⑨⑩より）、また、視覚障害（弱視）や認知症により周辺の状況を把握しづらいこと等が考えられる（情報②③より）。この状態が続くと、Aさんは、歩行時に転倒したり他者と接触する恐れがある。Aさんが安全に安心して歩行するには、T字杖を持ち忘れないよう声かけしたり、歩行中の見守りをするなどが必要と考える。支援にあたっては、Aさんの「歩きたい」という思いを尊重することや（情報⑪より）、薬の副作用（眠気等）（情報⑤より）に留意することが求められる。</p>
--